

病弱特別支援学校「仁戸名特支」の様々な取組～コロナ禍での新スポーツ大会を中心に～

## 1. 本校の児童生徒の実態

本校は、病弱虚弱児の特別支援学校であり、多くの児童生徒が病院に入院し、治療を受けながら学習している。児童生徒が入院している主な病院は、隣接している千葉東病院を始めとして、千葉大学医学部附属病院や千葉県がんセンター等、千葉市内の5カ所の病院である。主な病種は、腎疾患、骨肉腫や白血病などの腫瘍等、また、脳性麻痺等の重度重複等様々である。また、病気や治療の副作用により免疫力や抵抗力などが低下しているため、感染症に罹ると重篤化する可能性が高い。学習に取り組むことができる児童生徒にとって、治療を受けながら、仁戸名特別支援学校での学校生活、授業、学校行事は大変貴重なものである。

## 2. 伝統ある「クロッケー大会」の取り組み

本校のオリジナル種目である、団体種目「クロッケー」の大会が、昭和60年頃から校内中高クロッケー大会として行われてきた。平成4年度から千葉県特別支援学校体育連盟高等部スポーツ大会クロッケーの部として競技規定を定め「クロッケー3×3」が毎年本校会場で共催行事として行われている。

参加選手数の減少や選手の実態の変容に対応すべく、3人制の「クロッケー3×3」を2人制に改良した新ルール「クロッケー2×2」を作成し本年度採用された。校内大会は第37回、体育連盟の大会は、第30回を迎えた。



<クロッケー大会の様子>



<クロッケー大会の様子>



<常時酸素吸入が必要な選手の打撃の様子>  
(平成15年頃)



<ゲートと球>



＜松葉杖の選手が打撃する様子と補助具＞



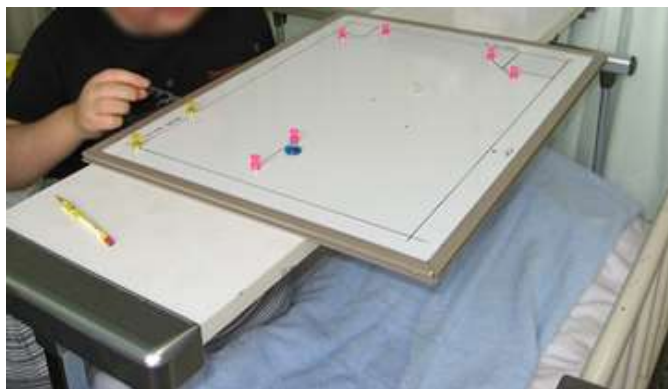
＜クロッカーする選手＞



＜車いすの選手が打撃する様子＞

平成19年度から個人種目の「ミニクロ」が競技として採用された。

「ミニクロ」は3つのゲートを通じた後ゴールポールに球を当てるまでの最少打数記録を競う種目であり、記録を基にランキングを作成し表彰することができる。体調が良く登校した生徒だけでなく、入院中の生徒が病院内の教室や病室でも参加できる。また、運動制限があっても参加できるようにホワイトボードにコートを作成し、おはじきをボールにして記録を測定することができるため病室のベッド上でも参加が可能である。



＜床上授業で記録に挑戦する様子＞

平成30年度第26回大会から千葉県立四街道特別支援学校と対戦して交流を図っている。千葉県立四街道特別支援学校は本校と同じく病弱の児童生徒が多く通う学校であり、外部の大会に参加することが難しい生徒が在籍していることから、「ミニクロ」を通して大会に参加できることは両校にとって貴重な交流の機会となっている。

コロナ禍の影響により令和2年度、3年度と体育連盟主催の大会が中止となった。令和3年度は、その代替案として感染対策を万全に行えば、校内大会は実施可能との判断により、第37回校内クロッカー大会として開催できた。本年度は「クロッカー」「ミニクロ」に加えて新たに「ニアボール」を作成し3種目の大会となった。「ニアボール」は大会当日体調が良く参加できた生徒が全員参加できる種目で、ルールも3m離れた場所にあるターゲットボールにどれだけ近づけられるかを競う簡単な種目である。

大会の表彰式では入賞した選手に賞状及びメダルが授与された。生徒のアンケートには「自分の力を出し尽くしました」「メダルが嬉しい」「練習は多くできなかったけど、楽しい思い出になりました」と記されていた。

病院内で参加した選手や当日参加できなかった選手には、後日担任から賞状等が授与された。

入賞した選手の一人は病状が悪化し、記録を測定したときには見えていた視力もメダルが渡されたときには見えなくなってしまったが、両手で表面の凹凸を触りながら「重い！裏面に文字が打ってある。すごく立派なメダルがもらえて嬉しい」と語り、喜んでいた。



<ニアボールを行う選手>

### 3. ICT機器を活用した学校行事「虹のつどい（ボッチャ大会）」

平成4年頃から5月に「若葉のつどい」として体育的行事のボッチャ大会を行っていた。平成16年に「全校の児童生徒が梅雨の時期に集い、交流を深めて虹をかけよう」を目的として「虹のつどい」に改名し、今年度まで毎年6月に行っている。この「虹のつどい」では、小学部から高等部までの全児童生徒が、ボッチャのボールを使用した競技に取り組んでいる。

登校できる普通学級の児童生徒の団体戦や重度重複学級の児童生徒は、本校体育館に集まり試合を行う。重度重複学級の児童生徒は、特設コートに集まり、オリジナル競技のゲームを行っている。ブルーシートの中にボールが入ったら得点となるルールは重複学級の児童生徒にとって分かりやすく、得点が得られたときには鈴や太鼓などを鳴らして盛り上げて称賛している。



<病棟同士でつないで練習試合を行っています>



<病棟内で練習も行いました>



<千葉東病院内の他の会場とオンラインでつながっています>



訪問学級の児童生徒は、それぞれの病院内にある教室のボッチャコートに集まり、団体競技を行っている。ICT機器を活用して本校体育館に投影し、体育館の児童生徒が観戦する。中継を視聴する体育館の児童生徒はスクリーンに釘付けとなり、カメラの向こうのチームメイトに向かって「がんばれ～」 「いいぞ～！」と声援を送っていた。



<各会場の試合を投影するスクリーンと体育館での熱戦>

本校では、以前からICT機器を活用し、本校体育館や各病院を繋いで「虹のつどい(ボッチャ大会)」を行っていたが、今年度は、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、本校体育館と各病院内の教室等5カ所、計6カ所を競技会場として行った。成績発表ではそれぞれの会場の成績が発表されるたびに児童生徒達の「やったあ～」、「いえ～い!」「うれしい!」等の大きな歓声が挙がり大変盛り上がった。

#### 4. 新たな取り組み

##### (1) 新種目「ソロボッチャ」

昨年度まで「虹のつどい」は3部制で行っていたが、当日の体調や治療により参加できない児童生徒がいたこと、さらに、本年度は新型コロナウイルスの感染対策のために体育館に集まれる児童生徒が減少したことなどから、当日、児童生徒が体育館に集まらなくても参加できる個人種目「ソロボッチャ」を作成し、新種目として加えた。

この「ソロボッチャ」は、5m離れたターゲットボールに自分のボールを近づける競技である。児童生徒の体調が良い時に練習して、体育科の授業で記録を測定し、その記録を基に選手同士が個人種目として対戦できるようにした。

##### (2) 競技

練習はできていても、当日参加できなかった児童生徒が毎年いたが、この種目が行えたことによって、当日は欠席の場合でも、個人種目には参加できるようになった。また、登校できても運動制限のある児童生徒や登校できずベッドサイドの授業しか行えない児童生徒もホワイトボード上のコートを使用して参加することができたため、ほとんどの児童生徒が参加可能になった。本年度は普通学級と訪問学級の小学部1年生から高等部3年生までの児童生徒23名が、この種目に参加することができた。



<ソロボッチャ>

### (3) 競技成績

この競技は、記録会の競技成績を基に、対戦相手を抽選で決定するため、学部学級を越えて対戦することが可能になった。対戦結果は、小学部1年生の児童が中学部の生徒に勝利したり、高等部3年生の生徒が中学部の生徒に負けてしまったりと興味深い結果となった。

対戦結果は病室にいる児童生徒に個別に報告し、中学部の生徒に勝利した児童は「ほんと？やったあ！中学生に勝ったの？」と驚いたり、負けてしまった生徒は「えっ！負けちゃったの？」と悔しがったりする様子が各病室で見られた。

また、アンケート用紙には、「しろいぼおるにちかづけるのがどんどんじょうずになって、かててうれしかった」「試合ができて良かった」「学校で一つになってみんなで楽しくできたことがとてもよかった」と書かれていた。

競技成績は、個人の記録証として「虹のつどい」の後に全児童生徒に授与された。



<児童のアンケート用紙裏面>

### (4) 反省点

「ソロボッチャ」は全校児童生徒が参加できる種目として考案したが、新型コロナウイルス感染対策としての取組として立ち上げたこともあり、練習の開始時期が少々遅くなってしまい、特に重度重複学級の児童生徒は練習時間が取れなかったために、「ソロボッチャ」の参加は見合わせる事となった。次年度は競技規定の周知を早々にして児童生徒全員が参加できるようにしたい。

### (5) 取組への反響

参加した児童生徒は「入院したときは、病室にいて大会に参加できると思えなかったけど、参加できてうれしいです。記録証ももらえてよかった」と語っていた。職員アンケートでは、「ソロボッチャは、とても良い。」「内容がシンプルでよい。」「生徒たちの活動が多く、素晴らしい。」「全員をしっかり表彰できる所が良かった」「来年度は全校児童生徒が参加できることを期待しています。」など意見が複数挙がった。



<ホワイトボードを使用したコート>

## 5. 新たな「通信制スポーツ大会」に向けた取り組み

7月に行われた、特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業第1地区担当者会議の場で「ミニクロ」と「ソロボッチャ」を紹介し、近隣の特別支援学校と連携して、通信制スポーツ大会が行えないか提案した。この「ミニクロ」と「ソロボッチャ」は選手同士が集まったり会ったりしなくても対戦できるスポーツであることから、新型コロナウイルスの感染対策が必要な現代であっても行うことのできる新たなスポーツ大会であり、特別支援学校を拠点とした障害者スポーツ振興事業の取組の一つとして通信制スポーツ競技大会が行えないか検討することになった。本年度は、年間指導計画の変更が難しく取り組むことができなかった。しかし、次年度に向けて前向きに準備することとなった。これが実現すれば多くの学校に在籍している児童生徒が集まることなく、安全に競技が行えるスポーツ大会が開催できることになる。大会開催に向けて、ソロボッチャのコートを体育館などの大きな会場でできる5m用コートの「ソロボッチャ5」と、教室や病室などの限られた場所でも設営できる小さな3m用コートの「ソロボッチャ3」の2種目を新たに作成し、準備することになった。

通信制スポーツへ向けての取組を各校、関係機関と連携しながら、今後の生涯スポーツ発展のために進めていくところである。